令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　35

事務事業名称		公共下水道(雨水)整備事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　上下水道部		課:　下水道整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	1.災害に対する備えができているまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　1958(S33)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	下水道法、都市計画法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	下水道法事業計画に基づき、浸水被害が軽減されている状態。 雨水ポンプ場の耐震性能が確保され、地震時でも排水機能が停止せず適切に運転できる状態。						
	対象者(受益者)	市内在住の全市民及び市内の全事業所						
	現状・課題	降雨による浸水被害の発生。 地震時の排水機能停止に伴う浸水被害の発生。						
	事業の概要	公共下水道排水区域(寝屋川北部流域関連3排水区、淀川左岸流域関連18排水区)を対象に、排水施設の整備及び根幹的な施設である雨水ポンプ場の耐震化を図り、浸水被害の軽減を図る。						
	年間の主な事務	公共下水道(雨水)の整備に伴う、設計及び工事 枚方市下水道整備基本計画に基づく事業の実施						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	5.90人	5.90人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	45,359	48,433	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	45,359	48,433	—	—		
歳出 物件費計	964,628	1,163,985	—	—	2,780,170	41.9%
歳出計	1,009,987	1,212,418	—	—		
歳入 国庫支出金	331,210	203,075	—	—	312,575	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	183,900	308,700	—	—	745,900	
歳入 その他	241,976	376,313	—	—	597,079	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	757,086	888,088	—	—	1,655,554	
一般財源(物件費充当分のみ)	207,542	275,897	—	—	1,124,616	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 公共下水道(雨水)の整備に伴う設計	地区	1 地区	0 地区	— 地区	— 地区
② 公共下水道(雨水)の整備に伴う工事	地区	2 地区	3 地区	— 地区	— 地区
③ 雨水ポンプ場の耐震診断及び設計	ポンプ場	2 ポンプ場	0 ポンプ場	— ポンプ場	— ポンプ場
④ 雨水ポンプ場の耐震化工事	施設	2 施設	3 施設	— 施設	— 施設

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル アウトプット①

説明	公共下水道(雨水)を整備する。					
指標	各年度に予定している公共下水道(雨水)の整備延長					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	120	375	260	390	m	
実績	125.2	45	—	—	m	
算出方法	—					

ロジックモデル アウトプット②

説明	ポンプ場の各施設の耐震化が完了する。					
指標	ポンプ場の耐震化率					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	33.8	44.2	55.8	70.1	%	
実績	39	42.9	—	—	%	
算出方法	(工事・委託完了件数 ÷ 工事・委託予定件数) × 100					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—					
指標	—					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	—	—	—	—	—	
実績	—		—	—	—	
算出方法	—					

アウトカム②

説明	—					
指標	—					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	—	—	—	—	—	
実績	—		—	—	—	
算出方法	—					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

枚方市下水道総合地震対策計画計画に基づき雨水ポンプ場の耐震化を進める。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	耐震診断を実施した結果、耐震性を有する施設を新たに確認できたため、ポンプ場の耐震化率が上昇し、目標を上回る結果となった。
R7年度	3箇所の雨水ポンプ場の耐震診断及び設計に取り組んだが、業務期間中に耐震対策指針が改訂され、業務の見直しを行ったことにより、令和8年度への繰り越しとなった。その結果、耐震性を有する施設の確認が今年度中にできなかったため、目標を下回る結果となった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	枚方市下水道総合地震対策計画計画に基づき雨水ポンプ場の耐震化を進める。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　118

事務事業名称		公共下水道(汚水)改良事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　上下水道部		課:　下水道整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	1.災害に対する備えができているまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	—		
	事業期間	事業開始：　2008(H20)年度		～	事業終了予定：　未定(継続実施含む)			
	根拠法令等	下水道法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:	—	
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	下水道施設の維持管理が適切に行われている状態。						
	対象者(受益者)	市内在住の全市民及び市内の全事業所						
	現状・課題	下水道施設の円滑な利用受益の阻害。						
	事業の概要	道路陥没の未然防止や雨天時などにおける汚水管への浸入水防止、管路の耐震化に向け、枚方市下水道整備基本計画に基づき、管路の点検・調査を実施し、汚水管渠の老朽化、耐震化対策として改築等を進める。また、都市計画事業等による支障移転についても実施する。						
	年間の主な事務	枚方市下水道整備基本計画に基づく事業の実施						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	6.80人	6.00人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	52,278	49,254	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		52,278	49,254	—	—		
	物件費計		987,051	724,425	—	—	1,085,565	66.7%
歳出計			1,039,329	773,679	—	—		
歳入	国庫支出金		161,950	35,375	—	—	40,875	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		455,000	326,000	—	—	643,400	
	その他		34,425	247,459	—	—	166,031	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			651,375	608,834	—	—	850,306	
一般財源(物件費充当分のみ)			335,676	115,591	—	—	235,259	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方市下水道ストックマネジメント計画に基づく改築等を進める管路施設を把握するため、点検・調査を実施する。	km	8.4 km	23.7 km	— km	— km

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	改築計画を作成した管路の改築が完了する。
指標	3年間で予定している改築計画延長に対する改築延長の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	33	66	100	33	%
実績	28.2	66.2	—	—	%
算出方法	（改築距離 ÷ 改築計画距離）× 100				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

枚方市下水道ストックマネジメント計画に基づき汚水管の点検、調査を行い、老朽化した汚水管の改築を進める。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	改築計画に基づき管路の改築を進めているが、事業を行うにあたり精査した結果、目標値に対する指標の達成度が28.2%であり、想定を下回る結果であった。
R7年度	改築計画に基づき管路の改築を進めており、令和6年度は目標値に対する指標の達成度がやや下回っていたが、令和7年度の実績を加算することにより目標値を上回る結果となった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	枚方市下水道ストックマネジメント計画に基づく下水道管路施設の点検・調査を実施し、引き続き汚水管渠の改築等を進める。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　146

事務事業名称		公共下水道(汚水)整備事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　上下水道部		課:　下水道整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	—		
	事業期間	事業開始：　1958(S33)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	下水道法　都市計画法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	公共下水道の整備により汚水と雨水が別々に処理されることで、都市基盤整備及び淀川水系の水質汚濁防止が出来ている状態。						
	対象者(受益者)	市内在住の全市民及び市内の全事業所						
	現状・課題	公共下水道が整備されないことにより、都市基盤が整備されていない一部の地区があり、淀川水系の水質汚濁が生じる。						
	事業の概要	生活環境の向上と公共用水域の水質保全を図るため、下水道の普及を促進する。						
	年間の主な事務	公共下水道(汚水)の整備に伴う、設計及び工事 枚方市下水道整備基本計画に基づく事業の実施						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	4.60人	4.50人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	35,365	36,941	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		35,365	36,941	—	—		
	物件費計		113,360	154,308	—	—	945,838	16.3%
歳出計			148,725	191,249	—	—		
歳入	国庫支出金		21,150	14,950	—	—	65,070	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		2,943	4,036	—	—	2,471	
	市債		80,100	56,700	—	—	689,300	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			104,193	75,686	—	—	756,841	
一般財源(物件費充当分のみ)			9,167	78,622	—	—	188,997	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 公共下水道(汚水)の設計	地区	3 地区	2 地区	— 地区	— 地区
② 公共下水道(汚水)の工事	地区	5 地区	3 地区	— 地区	— 地区

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	公共下水道(汚水)を整備する。
指標	各年度に予定している工事・委託の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	75	40	—	—	%
算出方法	(工事・委託完了件数 ÷ 工事・委託予定件数) × 100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

下水道人口普及率の増加

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	生活環境の改善や河川水質保全のため、公共下水道の整備完了に向けて、下水道(汚水)整備に取り組みました。(整備人口普及率97. 9%)
R7年度	生活環境の改善や河川水質保全のため、公共下水道の整備完了に向けて、下水道(汚水)整備に取り組みました。(整備人口普及率98. 0%)
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	整備済み区域内に点在する未承諾地区や整備困難地区などの未整備地区の解消に取り組みます。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　892

事務事業名称		下水道整備課運営事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　上下水道部		課:　下水道整備課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明		～	事業終了予定：　未定(継続実施含む)			
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:	—	
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	所管事務が適切かつ効率的に執行されている状態。						
	対象者(受益者)	課の職員						
	現状・課題	課の運営を円滑に図る必要がある。						
	事業の概要	課の運営業務						
	年間の主な事務	公共下水道(汚水)整備事業 公共下水道(汚水)改良事業 公共下水道(雨水)整備事業						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.70人	1.60人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.80人	0.80人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	13,070	13,134	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	3,227	3,501	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	16,297	16,635	—	—		
歳出 物件費計	1,406	1,364	—	—	2,371	57.5%
歳出計	17,703	17,999	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	1,406	1,364	—	—	2,371	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ―					

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：―

指標：―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：―

指標：―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					―
実績					―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

―

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	所管事務に係る他部局との連絡調整、各種庶務事務の執行や公用車の維持管理を適切に行った。
R7年度	所管事務に係る他部局との連絡調整、各種庶務事務の執行や公用車の維持管理および課内の物品・備品管理を適切に行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、円滑な事務執行に努めていく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―